

親子の絆～8歳の娘との大冒険～

2年前のSSTRの写真を眺めていたら、8歳の娘から驚きの言葉が出た。

『パパ、SSTR出てみたい。』

近所の習い事くらいでしかタンデムしたことのない娘にとって、バイク=ただ楽しいもの。

長距離の大変さ、時間の感覚はまだ無いのだろう。

アドレスv125sでは下道しか走れないこと。楽しいだけじゃ終わらないこと。危険を伴うこと。

しっかりと説明した。そして返ってきた言葉に驚いた。

『でも最高に楽しいんでしょ？』

より頑丈なタンデムベルトに買い替え、大型車の少ない道を調べ、カーブの曲がり方、急ブレーキ、急発進。練習を重ねた。

このバイクとの相性は良い。2年前にはSSTRをゴールしているし、遡ること11年前には、3ヶ月かけて1人日本一周したこともある。

5月28日に備えて何度も何度も繰り返し練習をした。妻と6歳の次女は当日に新幹線で現地へ行き、ゴールゲートで迎える準備をした。

出発は静岡の田子の浦に決めた。すぐそばに住む友人が、前日に泊まっていきなよと言ってくれた。準備は万端だった。

しかし28日の予報は雨。カップも用意して雨の練習もしていた。

しかし親として最優先すべきは【安全】。

26日の工作中、悩みに悩んで出走を27日に変更した。千里浜そばの石黒旅館に電話をすると、前日のお願いにも関わらず一部屋用意して頂けた。

仕事が終わると急いで準備をし、小学校から帰ってきた娘を捕まえ家を飛び出た。

静岡の友人宅へ着いたのは23時。風呂を借り、すぐに寝る。娘の疲労感は強く、翌日への不安が止まらない。

まともな睡眠も取れないまま4時に起床。寝ぼけ眼の娘をベルトでくくりつけ、田子の浦へ向かう。

前日の5時間近い運転の疲れ、娘が寝てしまうことの心配、不安が拭いきれないままのスタートとなった。

一つ目の道の駅を超えしばらく走り、南アルプスの麓へ差し掛かった時、嬉しいことが起きた。

初めてSSTRライダーとすれ違い、大きな大きなヤエーを返してくれた。

ヤエーの練習をしていた娘も大喜び。一気に体温が上昇したのがわかった。2人で大声をあげ、この仲間意識と一体感こそがSSTRの醍醐味だと感じた。

娘に聞いてみた。疲れてない？眠くない？

『楽しすぎるよ。ずっと走っていたい。』

この日初めて涙が出た。

ヤエーをもらい、喜び、楽しくなる。

もうこれだけでSSTRに出た価値がある。

でも人間は欲張りだから、楽しいだけじゃ終われない。ゴールをして貝汁が飲みたい。

そこから先、原付二種での親子タンデムということで、本当に多くの方に励ましの言葉を頂いた。

アフターSSTRで帰宅途中の方も、同じ日にゴールに向かってる方も、みんな優しい。

SSTRフラッグを頂いたり（そのままバイクにつけさせて頂きました。）、道に関してのアドバイスを頂いたり。

人に会うたび気持ちが昂る。アドレナリンを感じる。

しかし現実的には厳しい距離と時間。食事の時間は取れず、道の駅の串焼きなど、軽食のみとなった。

時間内のゴールはギリギリと感じていたが、やはり体力もキツイと思い、長めの休憩と食事を娘に提案してみた。

『休まなくていい。絶対にゴールしたい。』

娘の成長に涙腺が緩みながら、トイレのみの休憩でひたすら前へ。

一度の弱音も吐くことなく、ついに千里浜へ。

お互いに目を見合わせ抱き合った。

夕陽が、砂浜が、そしてスタッフの皆さんのおかえりの声が。

全てが包み込んでくれた。

急遽日程を変更したことで、妻と次女はゴールゲートには来れなかった。その代わり、バイクにくくりつけた携帯電話でゴールの瞬間を流し続けた。

20年前、学生時代に妻に初めてプレゼントしたヘルメットを自分が被り、家族のイニシャルが入ったスニーカーで、家族全員でのゴール。

13時間24分。娘は本当に頑張った。最高の時間を親子で共有できた。
今日という日を忘れない。今日見た夕陽を一生忘れない。

SSTRありがとう。